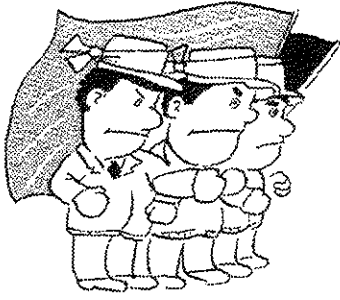


2012夏季一時金闘争

闘争中の仲間を支援し、 解決をかちとろう！

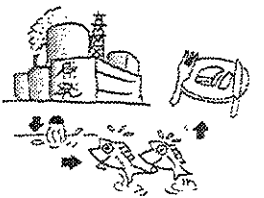


2012年
7月30日
No. 910

全国一般石川地方
労働組合 教宣部

金沢市駅西本町3-13-5
Tel 076 (262) 0724

発行人 久田友恒



2012夏季一時金要求職場 回答・妥結状況 一覧

2012年7月27日現在

職場	2012夏季一時金要求内容	回答・妥結状況	
冬夏年間要求	羽咋自校	年間160万円	寸志
	能中自校	年間160万円	11冬・12夏とも未解決
	加南加賀自校	年間160万円	11冬・12夏とも未解決
	林ベニヤ	年間135万円(夏季分として45%)	7/11回答(292,000円、1.3ヶ月)
	門前サンケン	年間5ヶ月(夏季分として2.3ヶ月) 送迎バス2便化	6/18妥結(277,274円、1.201ヶ月)
	芝寿し	夏季分として総収入の15%	7/5妥結(6.0%~8.0%+α)
夏季要求	北陸冷蔵	2.5ヶ月、正社員補充、有休取れる環境	7/19妥結(125,000円)
	市場冷蔵	2.5ヶ月、人員補充	7/13妥結(249,642円)
	魚市冷蔵	2.5ヶ月、人員補充	7/9妥結(205,000円)
	丸一石油	2.0ヶ月	7/24回答(176,471円、0.77ヶ月)
	北国製紙	2.5ヶ月	交渉中
	北陸葬祭	2.5ヶ月	7/25妥結(100,000円)
れん永昌堂	2.5ヶ月	7/23妥結(83,333円)	
夏冬年間要求	天狗中田	(分会)年間5ヶ月 (コスモス)年間分として 前年支給額+一律10万円	7/20妥結(正社員845,000円、3.383ヶ月 準社員 夏季分として88,000円) 7/20妥結(夏季分として51,533円)
	金沢製粉	年間5ヶ月	6/25妥結(917,143円)
	執行官室	年間4ヶ月、定年後再雇用の協定化	6/18妥結(291,375円、1.5ヶ月)

※ 金沢市清掃、大同テクノ、連合石川スタッフユニオンは別途要求、春闘時に同時決着。

六月五日の要求提出以降、各職場で奮闘を重ね、現在夏季取り組み職場十六のうち十一の職場で妥結となっています。しかし全体の妥結結果は、昨年比でも絶対額においても、きわめて厳しいと言わざるをえません。会社側は、売り上げの減

少、先行き見通しの悪さをあげ、低額回答を行っております。黒字の職場でも、経営者は利益が減ったと回答の抑え込みに走っています。電機業界をはじめ、大企業でも、厳しい環境だから仕方がないとかばかりに首切り、賃下げが横行していま

す。こうした情勢を見据えて、中小経営者も自らの生き残りのために、雇用があるだけマシとばかりに一時金の抑え込みを行っています。一時金は、会社の言うような利益の配分ではありません。私たちの生活給であり、賃金の後払いなのです。厳しい闘いの中においても、賃金カットの回復をかちとってきた職場があります。また経営再建途上においても、寸志とはいえ、かちとってきた仲間もいます。会

社による深夜割増率の引き下げなどの攻撃をはねかえしている職場があります。不景気を背景にして会社の回答は厳しいものがありますが、これに屈することなく、経営分析にふまえないながら経営責任をただし、職

首相官邸を取り巻く何十万の「再稼働反対」の抗議デモにもかかわらず、多くの反対の声を押し切って大飯原発が再稼働(七月一日)されました。政府と電力会社はこれを突破口にして、停止中の全国の原発を次々と動かそうとしています。こうした中、六月二十六日、二〇〇名の大原告団(原告団長は北野珠洲市議、副団長は堂下志賀町議)が、北電を相手どり志賀原発の運転差し止めを求める裁判を起こしました。地本から久田委員長を先頭に七名が原告に加わりました。

現在、全国各地の原発立地県で、フクシマの悲劇を二度と繰り返さないため、住民らが原発再稼働を阻止する裁判を次々と開始しています。原告団と弁護団は、志賀原発を廃炉に追い込むため全力で闘いますが、裁判を十分に進めるためには

財政的な支えが必要で、原告だけではできません。そこで、この裁判を財政的にも支援してくださるサポーター(年会費/一口千円)を募集しています。



「フクシマの悲劇を二度と繰り返さない」強い決意にみまざる結成総会(6/25 北陸会館)

活断層の上に志賀原発が！
「S-1」と呼ばれる活断層の上に志賀原発が建てられていたことが専門家から指摘され、今、大問題となつていきます。政府の原子力安全・保安院は北電に志

賀原発の真下を通る断層が活断層かどうかの再調査を指示しました。活断層であれば「立地不適格」であり、再稼働はできない以上、「廃炉」にしなければなりません。北電は「廃炉の可能性は全くない」と強がっていますが、3・11福島原発事故が起きた以上、もはや無視できなくなっているのです。脱原発の声を職場から地域から、もつともつと大きくしていきましょう。

志賀原発を廃炉に！訴訟サポーター募集します。
(年会費/一口1,000円)

絶対に志賀原発を廃炉にしたいと願う地本の仲間は、ぜひサポーターに参加し、裁判を支えて下さい！

6・26提訴 「志賀原発を廃炉に！訴訟」

大飯原発三・四号機の再稼働に抗議！

真下に活断層がある志賀原発は廃炉しかない！

場での要求をひとつひとつ実現するために奮闘していきましょう。
闘争継続中の職場は、一時金闘争を通して職場の団結強化も追求し、解決をかちとりましょう。すでに妥結した職場は、未解決職場の仲間を助け支援を強化し、最後までともに闘いぬきましょう。
職場、雇用、権利を守り、生活できる一時金をかちとるためにともにがんばりましょう。

第二次組織拡大行動

私たちの声を、なんとしても
未組織の仲間へ届けるぞ！

七月八、十三・十四日、今年二月に続いて第二次となる組織拡大行動を実施しました。地本の仲間のべ五十名が参加してくれました。

まず、八日に七尾（ベイモール）・金沢（エムサ前・小松（バロー前）の県内三カ所で、取り組みを周知する街頭宣伝・ビラまきを実



労働組合への結集を呼びかける林（ベニヤ七尾の仲間）（ベイモール七尾）

施。社民党石川県連合の清水幹事長に弁士をお願いし、連合石川に街宣車のご協力を頂きました。

地本の仲間が「労働なんでも相談」と大きく印刷したチラシを配ると、買い物帰りに「労働相談？ここに電話すればいいの？」と話しかけてくる方など、反応がいくつもありません。

これにふまえ、十三（金）十四（土）の両日、金沢（地本事務所）と七尾（林ベニヤ七尾組合事務所）の二ヶ所で、特別労働相談を実施。訪問や電話による相談対応に備えて、地本執行部・組織拡大委員・林ベニヤ七尾

執行部が交替で事務所に詰めました。こうした一連の取り組みは北國新聞でも報道されました。

その時間内には訪問等の相談はなかったのですが、職場によっては自家用車に宣伝用マグネットを貼ったり、新聞折込チラシを活用したり、そのかいあってか、直後に、過重労働に悩む労働者が「労働組合に入っていないのですが、相談できますか？」と地本に相談に来るなどしました。

やはり、労働運動全般の低調さのなかで、職場の問題に悩む未組織労働者が労働組合に問題解決の糸口を見出せずにいます。継続は力なり。まだできることはたくさんあります。創意工夫し組織拡大を実現しよう！

大同テクノ裁判闘争

会社側証人の尋問で、違法派遣、偽装請負の実態がさらに明らかに！

七月十八日、大同テクノ分会の仲間が取り組む裁判（控訴審四回目）が開かれました。テクノの仲間は、

親会社・大同工業において親会社正社員と同じ仕事をしながら、子会社の派遣・請負というだけで、低い賃金・労働条件を強いられています。親会社の正社員としての雇用、同じ処遇を求めて闘っています。

今回は、原告がテクノの会社役員を証人として求め、証人尋問が実現しました。会社役員は、テクノの仲間たちを違法な状態で働かせてきたことをごまかすために、所属部署や期間につ

いて「記録の通り：知らない：記憶がない」とくりかえしました。

また親会社以外の派遣先については「具体的な名をあげず、違法な専ら派遣を行っていたことを事実上自認しました。そして会社側は、テクノは親会社から独立した会社だと主張してきましたが、

テクノが自前の生産設備を持たず、親会社から設備のリースが切れることは想定していないなどと証言しました。つまり偽装請負であること、テクノが親会社の一部門でしかなく、それがあらためて明らかになったのです。

高裁での裁判闘争も大詰めを迎えています。今回の証言を引き出したことにより、親会社での正社員雇用などを認めるよう、裁判所に強く訴えています。

今や非正規雇用は三分の一を超え、多くの労働者が不安定な雇用、劣悪な賃金労働条件を強いられ、大半の仲間が声もあげられないでいます。テクノ分会の闘いは、全国の仲間たちの先頭に立つ闘いでもあります。

テクノの仲間は、裁判闘争のみならず、日々職場において奮闘しています。大同テクノ分会への支援をさらに強化し、ともに最後まで闘いぬきましょう。（次回第五回、十月十五日）

門前サンケン支部闘争
県労委で脱退表明者
七名を証人尋問
会社の不当労働行為を
追及する支部を支援しよう！

七月三日、三号事件（会社が関与し十七名の組合脱退表明とチェックオフ中止を引き起こした支配介入事件）の審問があり、組合が、脱退表明者を証人尋問しました。次回は八月九日。

既に二月に結審している二号事件（会社が、覚書と労働協約を無視して工場閉鎖と異動を強行した不誠実団交・支配介入事件）は、九月頃に命令予定です。

八月二十八日に中労委の証人尋問、同三十一日に金沢地裁の公判もあります。

仲間からの報告

脱原発社会の実現に向け頑張ろう！

7・16「さようなら原発10万人集会」

私たち地本の仲間六名は、県平和運動センターの一員として、七月十六日に東京の代々木公園で開催された「さようなら原発一千万人署名集約全国大会」に参加してきました。私は諸般の事情により前泊して、まだ空いていた午前十時に公園入りし、制服向上委員会



メイン会場の代々木公園に続々と結集する参加者。地本の仲間のプラカードも。

後方に建つ、今や政府の手先と化したNHK本社会館に向かつて、このところの偏向、制限報道に対する批

判のシュプレヒコールを会場全体でした点です。脱原発首相官邸前行動などを全く無視した姿勢は、到底メディアと呼べるものではありません。

そこ「さようなら」の金沢を早朝に出発した本隊と合流することができました。この先の感想は、昨年の9・19明治公園集會に参加した私にとっては、正直、消化不良な内容でした。

というのは、デモへのスムーズな出発を前提とした各配置のため、会場の一体感に乏しく、熱気も点在していたように感じました。また例えば前回、誰も胸に響い

たであろう、福島の前武藤さんの言葉、「東北の静かな鬼となる」等の呼びかけ人らの発言もほとんど聞けずじまいで、そのままデモ出発の時間が過ぎました。多少時間がかかって良かったので、メイン会場で参加したかったです。

途中、警察によりデモが細切れにされたり、なにより半端なく暑く、三キロの道のりがとても遠く感じましたが、浴槽で手を振って下さる方も多く、無事に辿りつきました。「野田やめろ」の掛け声にも力が入ったかと思われず。



炎天下、「原発のない社会をつくろう！」の横断幕を掲げ3kmのデモ。沿道の声援に力をもらう。

実現に向け、自分に何ができるかを考え、マスコミが看過できない取り組みを目指して、制服向上委員会や各方面の方々と連帯して頑張りたいと思います。（地本執行委員 福嶋貴広）